

今こそ外に打って出て、 同仁会の事業をお伝えするとともに 新たな連携を作り出そう



(副理事長 土井康文)

まだまだ広がりが少なく、さらに取り組みを知らせていく必要があると実感しました。地域に打って出る活動は、まだ緒に就いたばかりですが、一歩ずつ進めていきたいと思っています。

私たち同仁会は、理事長アピールとして「今こそ外に打って出て、同仁会の事業をお伝えするとともに、新たな連携を作り出そう」と提起し、「無料低額診療事業を広く地域にお知らせし、医療の問口を広げるとともに、医療・介護・福祉の諸団体と協力して、社会保障の充実に向けて前進を図る必要がある」と考えます。

そこで、堺市、和泉市、高石市の医療・介護・福祉のNPO法人168か所に、無料低額診療事業など、事業紹介の懇談をお願いするダイレクトメールを送付し、「訪問希望」や「詳しい資料請求」の返事も届いております。

鳳クリニクでは、2か所の法人を訪問しました。社会福祉法人「野のちから」は、精神障がい者を支援する団体です。鳳商店街でカフェを営み、地域住民が集う場所にもなっています。

鳳クリニクの印象を伺うと、「何をしているか外から見にくい。地域のイベントに参加して無料低額診療制度のお知らせをしてみるなど、もっと地域に出ているでしょうか。楽しいゆる〜いつながりが対話を生みますよ」「お金がない人は、「お金がない」という相談は「どうも」のものですよ」との率直な意見を頂戴しました。また、「医療は敷居が高いが、ありがたいもの。中でも訪問診療・訪問看護など、家に来てくれる医療は本当に心強い」との嬉しい言葉もいただきました。

「鳳クリニクも建て替え時には地域とつながる工夫（例えば、地域住民と一緒に活用できるスペースづくりや手話ができるスタッフの育成）を凝らしてくださいね」と期待の声も聞きました。

対話の中で、「無料低額診療制度」について、

総会方針実践のため 全職員が学習し理解



全日本民医連
第44回定期総会決定集

今、みみはらグループは、2月に行われた全日本民医連第44回定期総会の方針学習月間に取り組みんでいます。

民医連綱領が改定されて10年になります。この10年、政府は憲法改憲を執拗に追及し、社会保障の解体などで貧困と格差を拡大しました。民医連は綱領を力に共同組織と共に無差別平等の医療・介護

を実践してきました。総会後、新型コロナウイルスの感染拡大で、これまで経験したことのない困難の中にありますが、総会方針の実践のために、全職員が学習し、方針を理解することをめざしています。

学習した職員からは、「民医連綱領に基づいた医療・看護の提供から、SDH（健康の社会的決定要因）を行うことで、救える命があることを、再認識しました」「共同組織とともに人権としての社会保障を進め、健康格差がないようにしなければならぬと感じ

ました」「現在の「コロナ禍のもとで、さらに格差の拡大が進んでいます。『うち』と『人権』を守る活動が、本当に大切だと感じます」「貧困によって、必要な医療が受けられない人や入浴施設で生活する人がいることに驚きました。無料低額診療制度の大切さを改めて感じました」などの感想が出されています。

学びを力に、医療・介護活動を前進させ、憲法改憲阻止、権利として社会保障の充実、格差と貧困の打破、核兵器廃絶、地球環境保全などの運動をさらに力強く前進させます。

8月1日現在、約52%の職員が学習を終了しています。9月末までに全職員が学習するよう、取り組みを続けていきます。

(みみはらグループ
教育委員会事務局)

地域と連携して 孤独を防止

熱中症訪問

健康友の会みみはらの世話人の方と同仁会職員で、友の会の会員さんに熱中症訪問を行いました。訪問したご家庭は、高齢者の一人暮らしが、ご夫婦だけで暮らし



世話人さんと職員で訪問

ておられる方が多く、感染対策のため、換気に気を付けながらクーラーを使用している方が多くおられました。

今年は、マスクの着用で例年以

上に熱中症に注意が必要です。また、足腰が悪く外出しにくいのに、コロナウイルス感染拡大でいつも以上に外に出ることを自粛して「ストレスを感じている」という声も聞きました。

自粛で人と会う機会が減ってしまった方が多く、実際に訪問してお話を聞いたことを喜んでくださいました。「地域と連携して、孤独も防止しなくては」と強く感じました。

(同仁会報編集委員会事務局)